

# 「背中出る」恥じらい包む

「シャツから背中が出る」「ズボンがずり落ちる」。背中や腰が曲がった高齢者の悩みに応え、長い裾や深い股上で曲がった部分を包み込む洋服が売れている。「いつまでもおしゃれを楽しんで」と、子ども世代からの注文も多い。



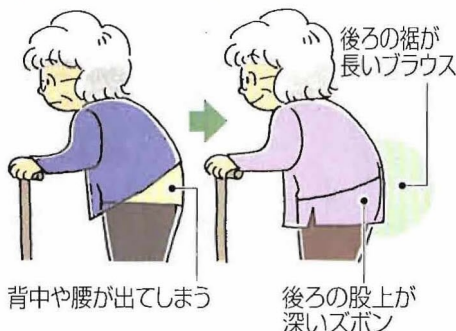
商品を説明する武石麗子社長―東京都世田谷区のマダムトモコで

## 高齢者向け 洋服が人気

### 腰が曲がった高齢者向けの服のイメージ

●普通の洋服

●工夫された服



背中や腰が出てしまう

後ろの股上が深いズボン

高齢者向けの洋服をみを持たせた。ズボンそろえた東京都世田谷も後ろの股上が前より区の「マダムトモ七・五」も長く、腰を「コ」。腰が曲がった特深く包む。注のマネキンに華やか 武石麗子社長(四三)の柄のシャツが掛けられ 母親(六三)が二〇〇三、棚にはバッグやア年、腰の曲がった祖母クセサリが並ぶ。へ米寿のお祝いに手作上着は裾が長く、縫りした。祖母が喜ぶ様製を工夫して背中に丸子に感激した武石さん

が特許出願を勧め、〇つて流行した柄を研究四年に販売会社を設立している。東京の店舗のほか、長野市の衣料品店「ファッショパーク」もネットでの通信販売もしている。出口に近い店舗には、義母(六三)の服を探し、生地をこだわったブラウスは一万八千九百円と安くはない。しかし注文は年々増え、現在は月に約五百件の注文だ。

生地にこだわったブラウスは、娘や嫁からの贈り物や、法事や孫の結婚式への出席を機に買う人もいる。「引きこもっていた母が友に会いに行った」店頭に並べている。母の注文は前年同月比三倍増の百五十一件。ネも恥じらいはある。法

香山篤美社長(六三)は、障害者の自立を支援する神戸市の社会福祉法人理事長、竹中ナミさん(六三)も母親(六三)のためにネットで「カヤ」の服を買った。「笑わなくなった祖母が笑った」。お礼の手紙も届く。

武石さんは、おしゃべりに対するこだわりから電話注文も受け付けている。古書店で昔のファッション誌を探し、かい」といった客の声をう」と話している。

世田谷の業者 孫らから注文も多く